

令和2年度  
第4回市政モニターアンケート  
子ども食堂の取組みについて

北九州市広報室広聴課

## 目 次

I	調査の概要	3
II	市政モニターの構成	3
III	調査結果	4
	子ども食堂について	4
	フードパントリーについて	10
IV	全体考察	11

## I 調査の概要

調査対象者 市政モニター 150人  
 回答者数 135人(回収率 90.0%)  
 調査実施日 令和2年8月3日から令和2年8月19日  
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査  
 調査実施課 広報室広聴課 TEL582-2527  
 調査依頼課 子ども家庭局子育て支援課

## II 市政モニターの構成

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 ( 100.0% )	66 ( 44.0% )	84 ( 56.0% )	区 別			
10歳代	3 ( 2.0% )	0 ( 0.0% )	3 ( 2.0% )	門司区	15 ( 10.0% )	7 ( 4.7% )	8 ( 5.3% )
20歳代	14 ( 9.3% )	4 ( 2.7% )	10 ( 6.7% )	小倉北区	28 ( 18.7% )	12 ( 8.0% )	16 ( 10.7% )
30歳代	21 ( 14.0% )	10 ( 6.7% )	11 ( 7.3% )	小倉南区	31 ( 20.7% )	14 ( 9.3% )	17 ( 11.3% )
40歳代	24 ( 16.0% )	12 ( 8.0% )	12 ( 8.0% )	若松区	13 ( 8.7% )	6 ( 4.0% )	7 ( 4.7% )
50歳代	22 ( 14.7% )	11 ( 7.3% )	11 ( 7.3% )	八幡東区	13 ( 8.7% )	6 ( 4.0% )	7 ( 4.7% )
60歳代	30 ( 20.0% )	14 ( 9.3% )	16 ( 10.7% )	八幡西区	37 ( 24.7% )	15 ( 10.0% )	22 ( 14.7% )
70歳以上	36 ( 24.0% )	15 ( 10.0% )	21 ( 14.0% )	戸畑区	13 ( 8.7% )	6 ( 4.0% )	7 ( 4.7% )

※モニター総数150名のうち郵送モニター36名、ネットモニター114名

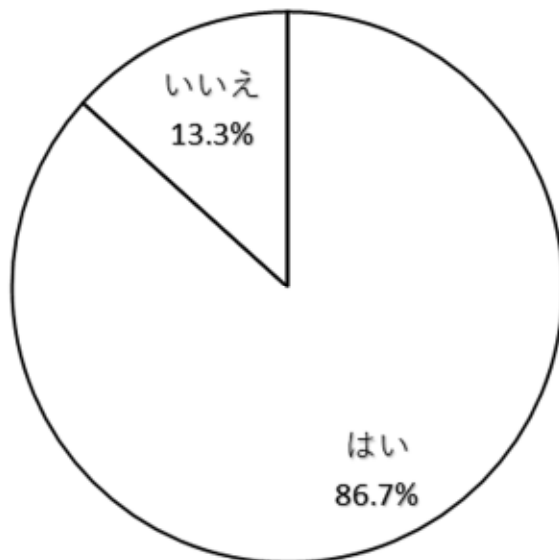
※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

### Ⅲ 調査結果

#### 【子ども食堂について】

##### (1) 子ども食堂の認知度

子ども食堂について知っていますか？



##### ①年齢別

年齢	回答者数	割合			
		はい	いいえ	はい	いいえ
全体	135	117	18	86.7%	13.3%
10代	0	0	0	-	-
20代	12	11	1	91.7%	8.3%
30代	16	11	5	68.8%	31.3%
40代	22	20	2	90.9%	9.1%
50代	20	19	1	95.0%	5.0%
60代	28	24	4	85.7%	14.3%
70代	32	28	4	87.5%	12.5%
80代以上	5	4	1	80.0%	20.0%

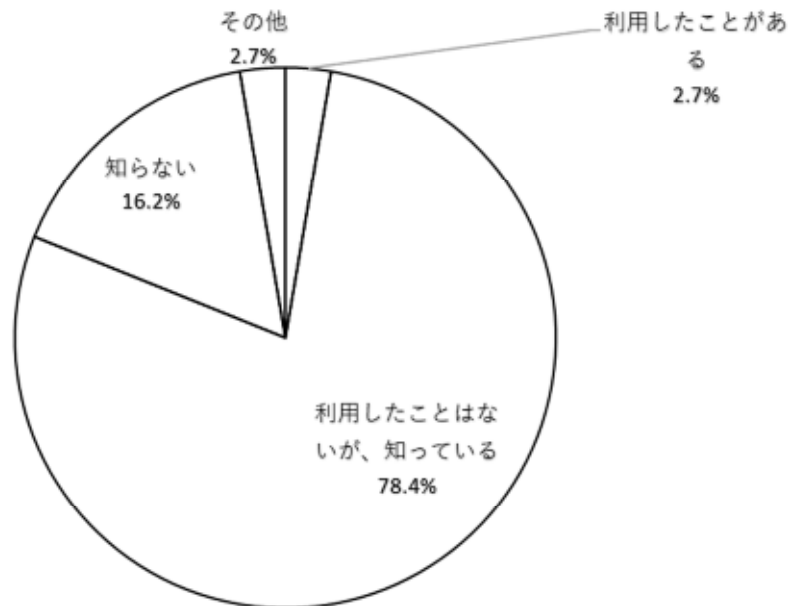
※子ども食堂を「利用したことがある」または、「利用したことはないが、知っている」等と回答した人は「はい」と数え、「知らない」等と回答した人を「いいえ」と数えたもの

②子どもの有無別

(同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人といない人の比較)

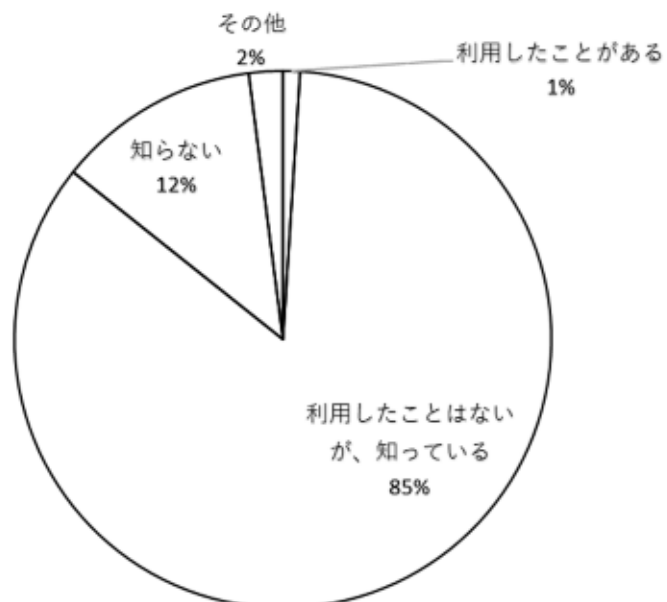
子ども食堂の認知度

(同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人の場合)



子ども食堂の認知度

(同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人の場合)

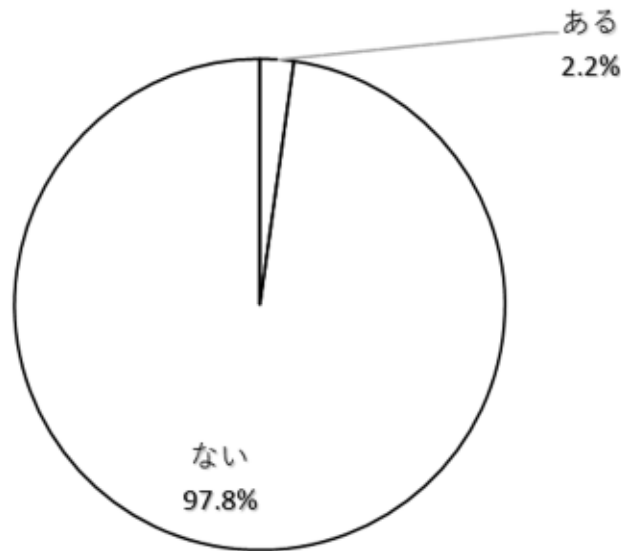


子どもがいる人※ <sub>1</sub> (回答数37人)				子どもがいない人※ <sub>2</sub> (回答数98人)			
利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない	その他	利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない	その他
1	29	6	1	1	83	12	2

※<sub>1</sub>同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人

※<sub>2</sub>同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人

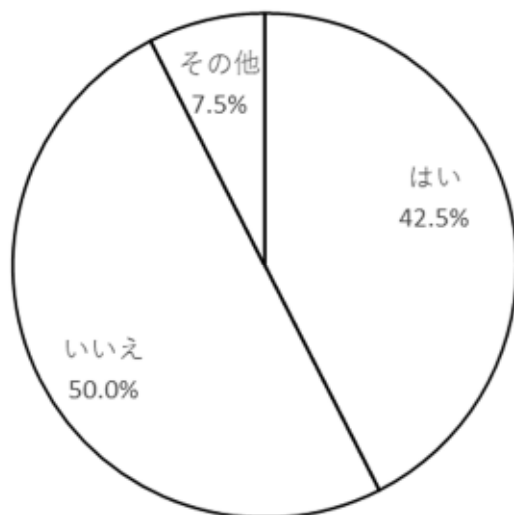
(2) 子ども食堂への参加について  
子ども食堂に行ったことはありますか？



全体	ある	ない
135	3	132

※「ある」と回答した人には、ボランティアとして参加したことがある人も含む

(3) 子ども食堂に行ってみたいと思いますか？  
 (子ども食堂に行ったことがない人を対象に質問)



①年齢別

年齢	回答者数		割合					
			はい	いいえ	その他	はい	いいえ	その他
全体	120	人	51	60	9	42.5%	50.0%	7.5%
10代	0	人	0	0	0	-	-	-
20代	12	人	5	7	0	41.7%	58.3%	0.0%
30代	12	人	7	5	2	58.3%	41.7%	16.7%
40代	18	人	9	9	1	50.0%	50.0%	5.6%
50代	18	人	6	12	2	33.3%	66.7%	11.1%
60代	22	人	7	15	1	31.8%	68.2%	4.5%
70代	26	人	16	10	2	61.5%	38.5%	7.7%
80代以上	3	人	1	2	1	33.3%	66.7%	33.3%

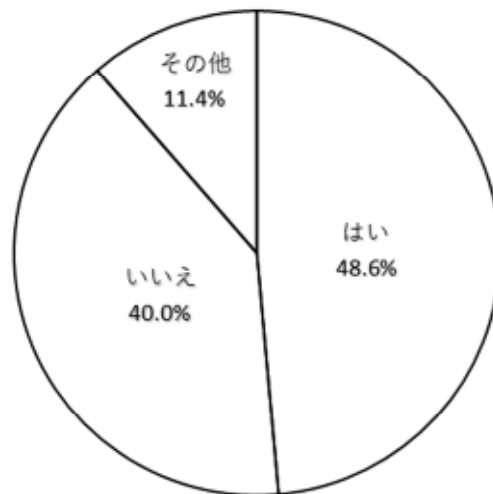
②子どもの有無別

(同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人といない人の比較)

子ども食堂に行ってみたい人の割合

(同居もしくは市内に子どもがいる人の場合)

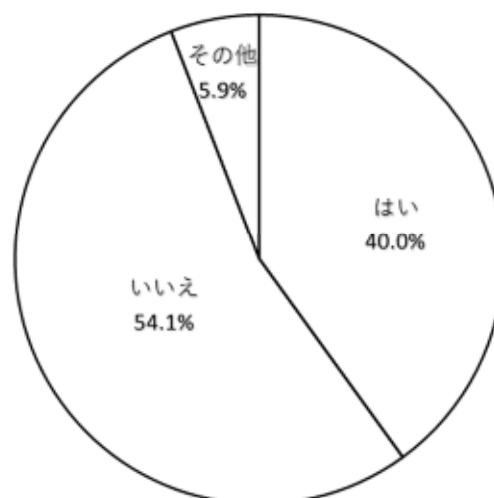
子ども食堂に行ってみたいと思いますか？



子ども食堂に行ってみたい人の割合

(同居もしくは市内に子どもがいない人の場合)

子ども食堂に行ってみたいと思いますか？

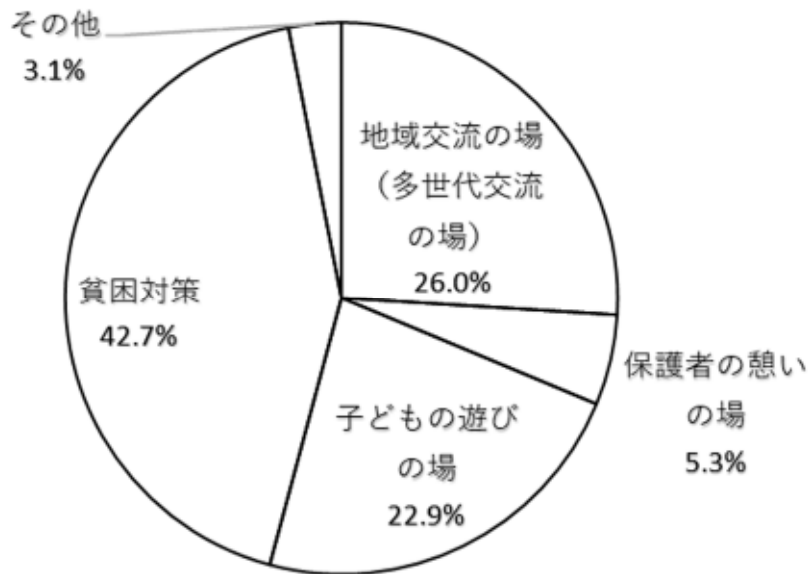




子どもがいる人※ <sub>1</sub> (回答数35人)			子どもがいない人※ <sub>2</sub> (回答数85人)		
はい	いいえ	その他	はい	いいえ	その他
17	14	4	34	46	5

※<sub>1</sub>同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人  
 ※<sub>2</sub>同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人

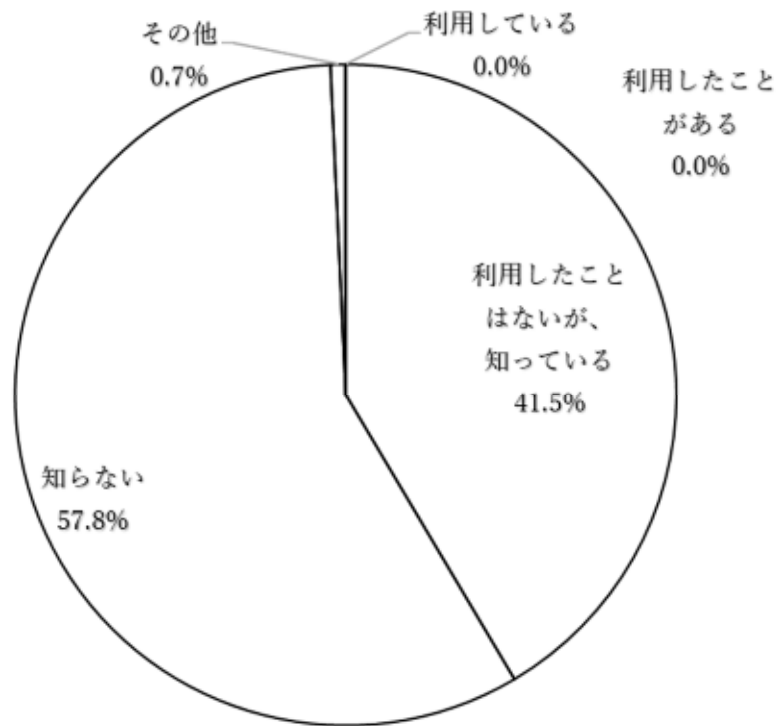
(4) 子ども食堂はどういうところだと思いますか  
 (複数回答可能)



回答者数121人		
地域交流の場(多世代交流の場)	59	人
保護者の憩いの場	12	人
子どもの遊びの場	52	人
貧困対策	97	人
その他	7	人

【フードパントリーについて】

(1) フードパントリーについて、知っていますか？



回答者数121人		
地域交流の場(多世代交流の場)	59	26.0%
保護者の憩いの場	12	5.3%
子どもの遊びの場	52	22.9%
貧困対策	97	42.7%
その他	7	3.1%

## IV全体考察

子ども家庭局子育て支援課では、民間の活動である「子ども食堂」や「フードパントリー」に対して支援を行っている。今回、今後の取組みに繋げていくため、認知度等について、アンケートを行なった。

### 【子ども食堂について】

#### (1) 子ども食堂の認知度

子ども食堂を「利用していたことがある」または、「利用したことはないが、知っている」と回答した人は、全体の86.7%で、20代、40代、50代に関しては、その割合は90.0%を超えていた。

また、同居または市内に20歳未満の子どもがいる人と、そうでない人の認知度の比較を行なった。子どもがいる人で、「利用したことがある」または、「利用したことはないが、知っている」と答えた人は全体の81.1%、子どもがいない人のその割合は86.0%と、子どもの有無に関わらず、子ども食堂の認知度が高いことがわかった。

#### (2) 子ども食堂への興味・関心

子ども食堂に行っていない人の中で、子ども食堂に行ってみたいと答えた人は全体の42.5%だった。一方、「いいえ」と答えた人の割合は、全体の50.0%だった。その中には「子ども食堂は子どもの行く場所だと思うから」という意見があった。

また、子ども食堂に行ってみたいとの回答は、子育て世帯で約49%、子どもがいない世帯でも40%に上り、子ども食堂が「子どもを中心とした多世代交流の居場所」として認識されていることが伺える。

#### (3) 子ども食堂の役割

本市では、子ども食堂を地域の多世代交流の場と位置付け、取組みを進めているところであるが、子ども食堂の役割について質問したところ（複数回答方式）、「貧困対策」が約43%、「地域交流の場（多世代交流の場）」が26%、「子どもの遊び場」が約23%、「保護者の憩いの場」が約5%となり、多様な役割を持つ活動であると認識されていることが分かった。

### 【フードパントリーについて】

フードパントリーについて、「利用したことはないが、知っている」と答えた人は、41.5%、「知らない」と回答した人は57.8%だった。フードパントリーは新型コロナウイルス感染症の影響で注目が集まった活動だが、半年間で4割の人が知っているとの回答から、子ども食堂と同様に本市でも大変関心の高い取り組みであるといえる結果が出た。

今回の調査結果を参考に、本市における子ども食堂やフードパントリーの支援のあり方について検討していきたい。